

2009年（平成21年）自転車生産・輸出入・出荷状況

財団法人 自転車産業振興協会

1. 最近の需給状況

- ① 1950年以降、高度経済成長期やその後の2度にわたるオイルショック、さらにはバブル景気等の経済変動の中にあつて、我が国の自転車需要は順調な伸びを見せ、2000年には年間出荷台数が1,000万台を突破するまでに拡大した。
- ② 需要の増加に伴い国内生産も年々拡大を続けたが、1990年をピークとしてその後は減少に転じ、輸入が国産の減少分をカバーする以上の勢いで増加して国産を凌駕するようになり、今では国内需要の9割は輸入車が占める状態にある。
- ③ 2000年以降の出荷台数は毎年1,000万台超で推移してきたが、近年は減少傾向にあり、09年には967万台と10年ぶりに1,000万台を下回るレベルにまで縮小した。
- ④ 需要減少の主な要因は次のとおり。
 - ◆08年9月のリーマンショックを契機とする景気低迷
 - ◆00年前後からの需要規模の肥大化が進んだ結果、市場が飽和状態となったこと（直近10年間の出荷量合計は1億779万台で、日本の総人口1億2,750万人の85%を占有）
- ⑤ 09年には、国産車の価格は電動アシスト車の増産等によりアップしたが、輸入車の価格が下落したため、供給全体では前年を下回った。

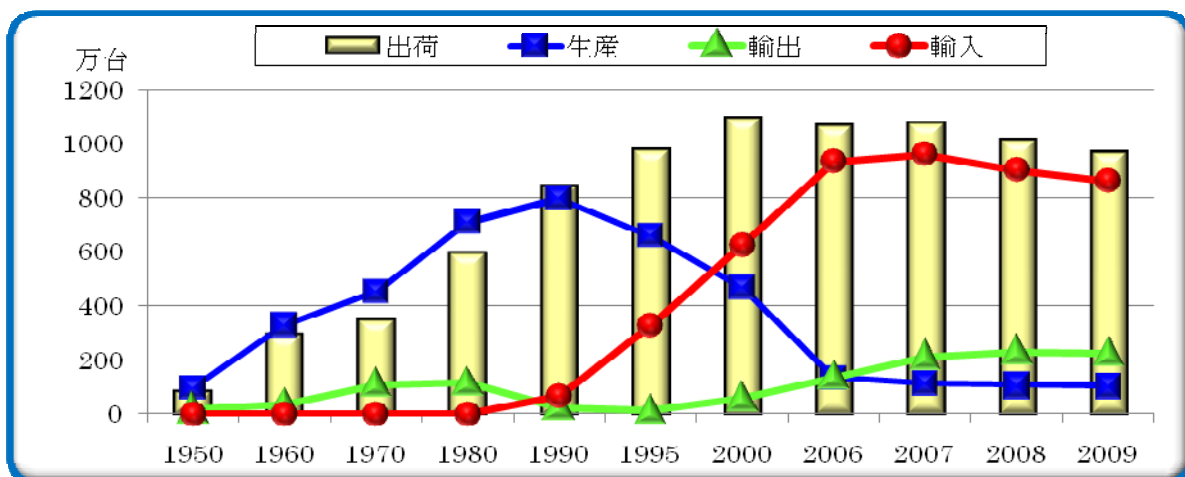
表-1 日本の自転車国内生産・輸入、国内出荷の推移

（単位＝万台）											
年	1950	1960	1970	1980	1990	1995	2000	2006	2007	2008	2009
生産	98	329	453	708	797	658	468	134	114	110	105
輸出	16	36	107	113	23	10	56	134	210	228	221
輸入	0	0	0	0	67	327	623	934	960	903	862
出荷	82	293	346	595	841	975	1,091	1,067	1,074	1,013	967

統計出所：経済産業省機械統計、財務省貿易統計

（注1）電動アシスト車は国内生産には含むが、輸入には含まない

（注2）国内出荷は国内生産と輸入（全体）を加算したもののだが、千未満の端数処理により、これらの和と一致しない場合がある



2. 生産

09年における自転車生産台数は1,045千台で、前年の1,095千台に対し5%（50千台）の減少となった。一方、金額ベースでは342億2,100万円で、前年の288億4,600万円よりも19%（53億7,500万円）の大幅アップとなっている。

車種別では、軽快車が566千台で全体の54%を占めて最も多く、次いで電動アシスト車308千台（29%）、ミニサイクル67千台（6%）、子供車・幼児車52千台（5%）、特殊車46千台（4%）と続き、マウンテンバイクは僅か6千台（0.6%）となっている。

平均単価は全車種とも前年を上回っており、全体では32,747円と前年の26,343円よりも6,404円の上昇となった。生産金額の増加要因として特筆されるのが、前年に続き高価格の電動アシスト車の増産である。電動アシスト車は、他の車種が減産傾向にあるなかで、需要の拡大を背景に安定した増産傾向にある唯一の車種である。

車種別生産の状況

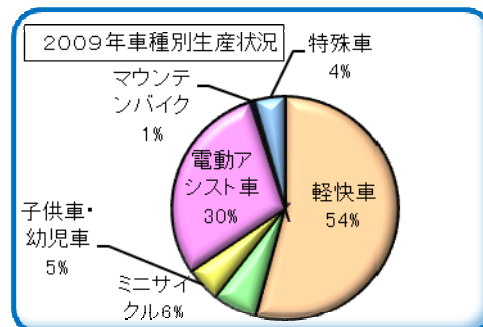
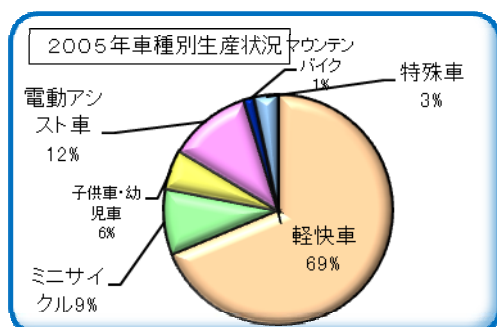
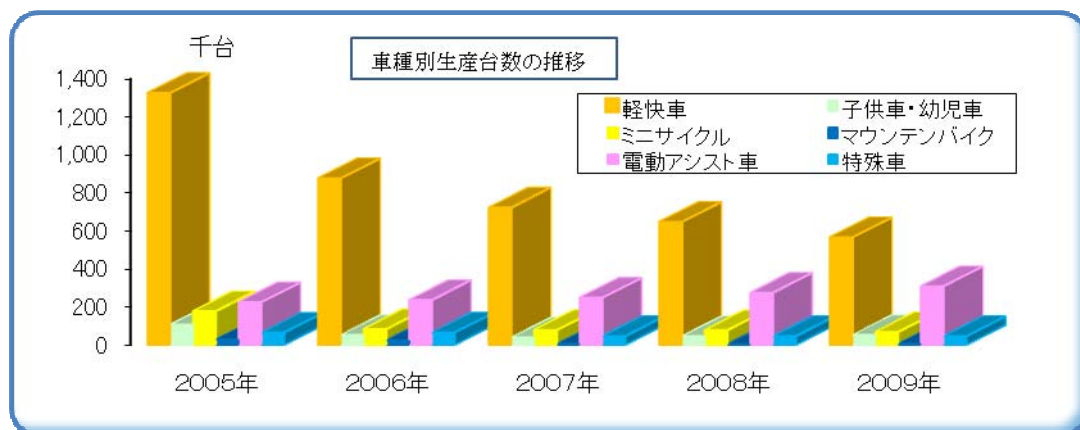
（単位：数量＝千台、金額＝百万円、平均単価＝円）

車種	2005年	2006年	2007年	2008年			2009年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
軽快車	1,325	876	722	647	10,356	16,006	566	10,473	18,504
子供車・幼児車	107	52	39	46	532	11,565	52	683	13,135
ミニサイクル	177	83	78	77	1,024	13,299	67	920	13,731
マウンテンバイク	29	24	5	4	102	25,500	6	137	22,833
電動アシスト車	224	236	248	274	15,041	54,894	308	19,900	64,610
特殊車	64	65	46	46	1,791	38,935	46	2,107	45,804
合計	1,926	1,336	1,138	1,095	28,846	26,343	1,045	34,221	32,747

統計出所：経済産業省・機械統計

（注1）千未満を端数処理したため、全車種の和と「合計」が一致しない場合がある

（注2）平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



3. 輸 出

06年まで増加を続けてきた自転車輸出だが、08年から減少に転じており、09年は対前年比3%減の2,215千台となった。一方、金額ベースでは30億100万円と前年の37億7,200万円に対し20%のダウンとなり、平均単価（FOB：本船渡し価格）も前年の1,652円から1,355円と18%下落した。

仕向地別では、ガーナが417千台と全体の19%を占めて最も多く、次いでカンボジア355千台、ベトナム251千台、タンザニア231千台と続いており、アジア向けが1,536千台でアフリカ向けの670千台と合わせると全輸出の99.6%に及んでいる。輸出単価と仕向地からも分かるように、自転車輸出の殆どは日本で消費され使用された中古車である。

主要仕向け地のうち、前年と比べて増加しているのは、香港（132千台増）、ミャンマー（114千台増）、ガーナ（101千台増）及びタイ（57千台増）等であり、対照的に著しく減少したのはベトナム（285千台減）及びカンボジア（120千台減）である。また、かつて大量の輸出があった中国と北朝鮮向けは大幅に減少している。

仕向地別輸出状況

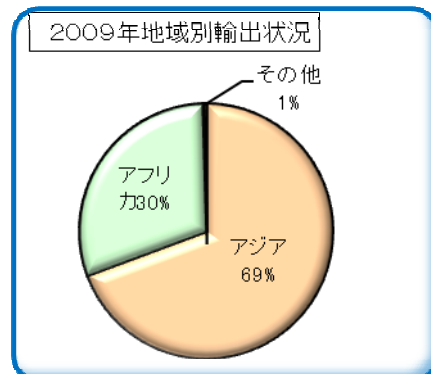
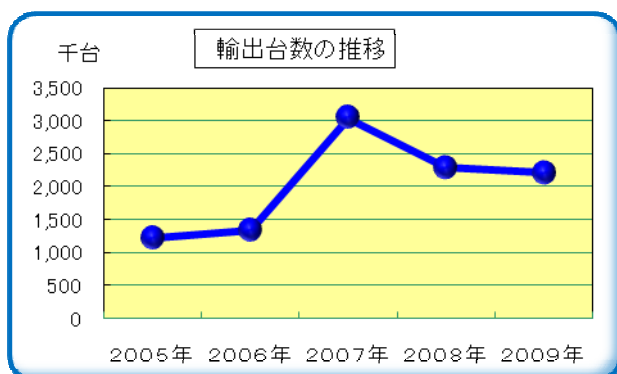
（単位：数量＝千台、金額＝百万円、平均単価＝円）

国 名	2005年	2006年	2006年	2008年			2009年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
ガーナ	135	218	260	316	583	1,845	417	681	1,633
カンボジア	498	441	587	475	686	1,444	355	415	1,169
ベトナム	0	75	592	536	876	1,634	251	415	1,653
タンザニア	25	64	199	295	518	1,756	231	381	1,649
アラブ	12	16	75	68	117	1,721	119	188	1,580
ミャンマー	51	67	29	69	109	1,580	182	210	1,154
タイ	39	51	140	97	175	1,804	154	194	1,260
香港	332	255	4	6	12	2,000	138	157	1,138
フィリピン	21	34	61	67	81	1,209	99	115	1,162
その他	108	119	1,091	354	615	1,737	269	245	911
合計	1,221	1,340	3,038	2,283	3,772	1,652	2,215	3,001	1,355

統計出所：財務省・貿易統計

（注1）「その他」は、合計から表中の各国の数値を差し引いて算出したものである

（注2）平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



4. 輸 入

輸入状況を見ると、数量ベースでは8,622千台で対前年比マイナス5%（981千台）となり、08年に続いて前年を下回った。また、金額ベースでは704億1,500万円に対前年比マイナス

10%（77億2,700万円減）となって、数量と同様に減少している。

仕入国は中国が圧倒的に多く全輸入の96%を占め、第2位の台湾は僅か3.6%にとどまっております、両国以外の国は全て合計しても1%に満たない。

輸入車の平均単価（CIF：運賃保険料込み価格）は8,167円で、中国における金属材料の高騰や労働条件の改善による人件費アップ等の影響で中国車の製造価格が上昇した08年よりも483円のダウンとなっている。

仕入国別輸入状況

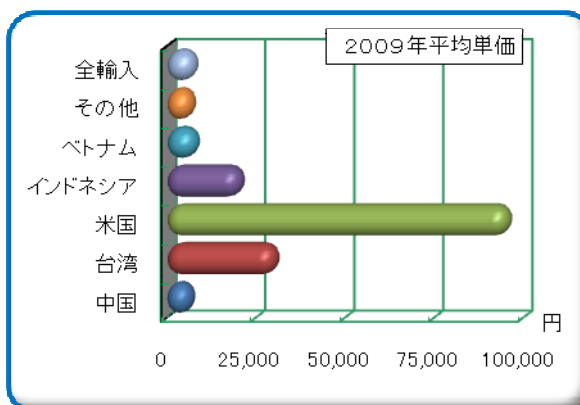
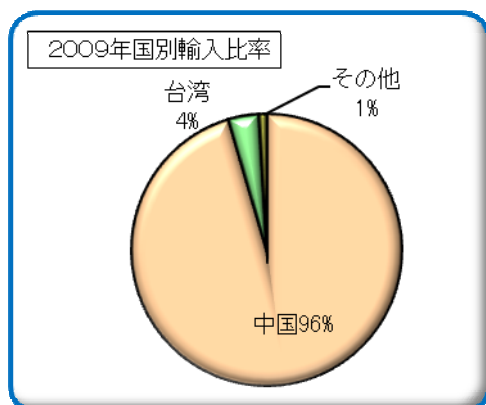
（単位：数量＝千台、金額＝百万円、平均単価＝円）

国名	2005年	2006年	2007年	2008年			2009年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
中国	8,813	8,948	9,276	8,694	67,834	7,802	8,232	59,549	7,234
台湾	308	361	300	317	8,917	28,129	313	9,684	30,939
米国	10	10	10	7	750	107,143	6	577	96,167
インドネシア	1	0	1	1	8	8,000	5	106	21,200
ベトナム	2	0	3	5	45	9,000	5	43	8,600
その他	10	20	13	10	438	43,800	61	456	7,475
合計	9,144	9,339	9,603	9,034	78,142	8,650	8,622	70,415	8,167

統計出所：財務省・貿易統計

（注1）1000未満を端数処理したため、各国の和と「合計」が一致しない場合がある

（注2）電動アシスト車は含まない



車種別では、軽快車が3,744千台と全輸入の半分近く（43%）を占めて最も多いが、前年に対して9%（363千台）の減少となっている。軽快車に次いで多いのが2,929千台の子供車・幼児車で、この車種も軽快車と同様に前年を下回っている。

軽快車及び子供車・幼児車以外では、ミニサイクルが118千台と対前年比25%減、対05年比では58%減と大幅に減少している。

対照的に増加傾向にあるのがマウンテンバイクと、スポーツ車及び外装変速機付軽快車等を含む「その他」で、前者は301千台で対前年比1%増、後者は同14%増となっている。増加の要因は、中国については国内市場で需要が高まっている外装変速機付軽快車の輸入が増加したこと、台湾については欧米の人気ブランドのOEM生産基地となっている台湾からのスポーツ車輸入が増加したためとみられる。

車種別輸入状況

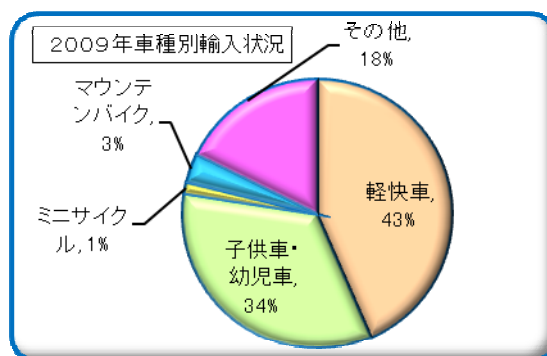
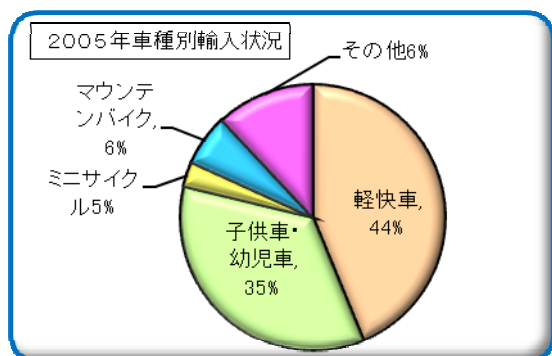
(単位:数量=千台、金額=百万円、平均単価=円)

車種	2005年	2006年	2007年	2008年			2009年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
軽快車	4,000	4,248	4,482	4,107	32,050	7,804	3,744	26,558	7,093
子供車・幼児車	3,198	3,370	3,355	3,132	22,062	7,044	2,929	18,968	6,476
ミニサイクル	278	263	214	158	1,768	11,190	118	1,419	12,025
マウンテンバイク	576	376	289	297	5,261	17,714	301	5,739	19,066
その他	1,092	1,082	1,263	1,340	17,001	12,687	1,529	17,731	11,596
合計	9,144	9,339	9,603	9,034	78,142	8,650	8,622	70,415	8,167

統計出所:財務省・貿易統計

(注1)1000未満を端数処理したため、全車種の和と「合計」が一致しない場合がある

(注2)平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



5. 出荷

出荷台数(注)は、9,667千台で、対前年比5%(461千台)減となった。99年から04年まで右肩上がりに増加を続けたが、それ以後は07年を除き漸減傾向にあったが、09年は99年以来10年振りに1,000万台を下回る出荷量となった。

車種別比率をみると、軽快車が45%と最も多く、次いで子供車・幼児車が32%であり、これら2車種で全体の約8割を占めている。それ以外の車種は、近年増加傾向にあるスポーツ車、外装変速機付軽快車等の「その他」の17%を除き、いずれも3~4%にとどまっている。

(注)出荷統計が整備されていないため、本稿では生産と輸入の数量を合計した数値をもって出荷台数としている。なお、一般的に国産には輸出分が含まれるが、「2. 輸出」で述べたように我が国の自転車輸出の殆どが中古車であるため、出荷台数の算出に当たって輸出数量は無視している。

車種別出荷状況

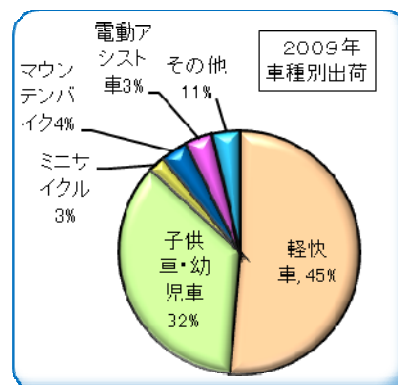
(単位=千台)

車種	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
軽快車	5,325	5,124	5,204	4,754	4,311
子供車・幼児車	3,305	3,422	3,394	3,178	2,982
ミニサイクル	455	346	292	235	185
マウンテンバイク	605	400	294	301	307
電動アシスト車	224	236	248	274	308
その他	1,156	1,147	1,309	1,386	1,575
合計	11,070	10,675	10,741	10,128	9,667

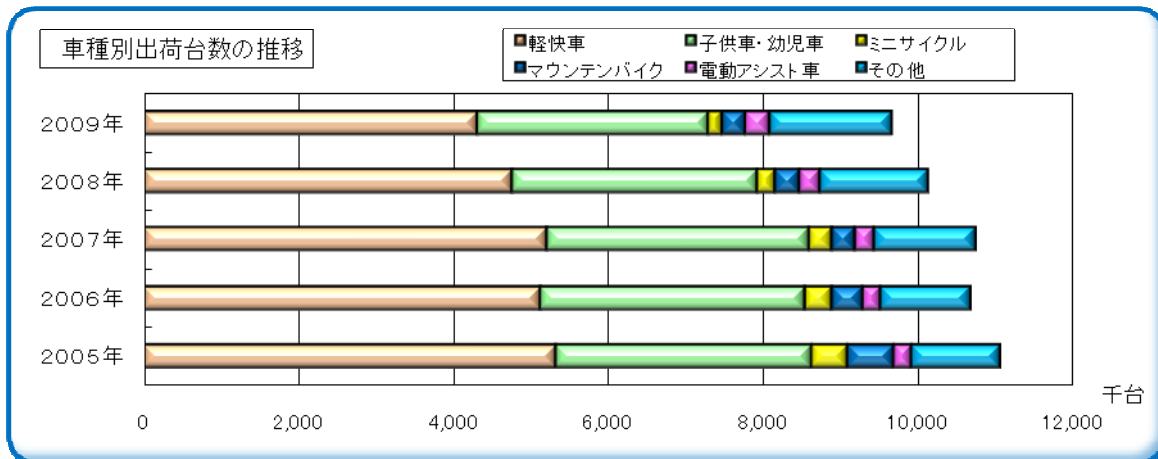
統計出所:経済産業省・機械統計及び財務省・貿易統計

(注1)1000未満を端数処理

(注2)電動アシスト車は国内生産分のみ



05年～09年の車種別出荷状況は下図のとおりで、全体的な出荷量の漸減傾向は、5割を占める軽快車の減少が大きく影響しているほか、ミニサイクルとマウンテンバイクの低減もその要因となっている。



以上